

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

大震災から協調介入95年の再演なるか？



3月11日の後場、大引け前に発生した東北地方太平洋沖地震。発生直後から先物主導で崩れ、夕場から被害の大きさが明らかとなった週明けもリスク回避の流れに。原発不安も高まった15日は日経平均株価が過去3番目の下落率を記録した。

まさに「記録的暴落劇」となったが、円の「高値更新」という一段の下押し要因が加わったものの、18日早朝開催のG7で「協調介入実施」が伝わり、円安基調転換とともに、ひとまずは「相場崩壊」が食い止められた格好だ。

奇しくも前回の「円最高値」は1995年、阪神大震災後の4月だった。正確には、1月の震災から、3月の地下鉄サリン事件の「人災」も影響した格好だが、その後は5月末のG10で協調介入方針が伝わり、円安基調転換とともに株式相場も復調へと向かった経緯が思い出される。

今回も原発不安は東電へ9501Vによる「人災」とも指摘もあるが、協調介入実施で相場復調の「再演期待」が高まるどころ。ただ、ネット普及で情報伝達速度が飛躍的に増したとはいえ、相場の基調変化を急ぎ過ぎているのではないか。

そこで弊社では、相場の基調変化対応、ボラティリティ大幅上昇を利益機会とすべく、先物マニュアル「山本伸一の日経225先物パートナーレード」の愛読者販売を実施した。興味を持たれた方は弊社に直接問い合わせてください。